

デーリー東北
2021年(令和3年)6月19日(土曜日) (17)

津波、高潮に強い植物は

八工大種差海岸で公開講座

座学や散策、30人が理解深める

八戸工業大は12日、八戸市の南浜公民館などで「種差海岸の植生に萌える〜津波に負けない強さのヒミツ〜」と題し、座学や散策を通して、種差海岸の植物への理解を深めた。(柴田佳弥)



鮎川恵理准教授(左)から種差の植物について学ぶ参加者

今回の講座は、同大と八戸アックセンターが連携して開催。同大の鮎川恵理准教授と星野保教授が講師を務めた。

同公民館で行われた座学で、鮎川准教授は「津波や高潮で帰化植物などが排除されて、海岸植物が生き残る」とし、東日本大震災を乗り越えた植物の魅力を紹介。星野教授は海岸の海浜植物を餌とするキノコについて、青森県内で実施した調査などを基に説明した。

その後、参加者は葦毛崎展望台付近に移動。ニッコウキスゲやハマヒルガオなどの植物について説明を受けながら散策し、環境と植物の関わりなども学んだ。

参加した同市の造園業、野添匠さん(29)は「地元だが、歩いてみないと分からないこともある。とても勉強になったし、違う季節にまた散策してみたい」と話した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。